

令和2年度 第2回埼玉県立図書館協議会会議録

◇ 日 時

令和2年10月29日（木）午後2時30分から午後4時まで

◇ 会 場

さいたま共済会館502会議室

◇ 出席者

（1）出席委員

後藤悦子委員、笛木智恵美委員、小澤嘉昭委員、神原和子委員
後藤愛委員、酒井由紀子委員、滝澤正文委員、日向美津江委員

（2）図書館職員

【熊谷図書館】

金子隆館長、平野雄三副館長、峰岸まり子副館長
浮ヶ谷守央担当部長、井上剛担当課長、須貝俊司書、福島孝彦専門員

【久喜図書館】

芋川修館長、今井久典副館長、高橋勉副館長、高野治子司書主幹
太田ありか司書

（3）教育局職員

小林裕一生涯学習推進課副課長

◇ 会議次第

1 開会 [熊谷図書館平野副館長]

2 あいさつ[熊谷図書館金子館長]

3 前回会議録の報告

全出席委員、異議なく承認された。

4 会議録署名委員の指名

会長が、小澤嘉昭委員と日向美津江委員を指名し、了承された。

会議を公開することについての議決

会長が公開とする旨を発言し了承された

また、本日の会議では傍聴者はいないことが確認された。

5 議事

(1) 県立図書館の児童サービス及び子ども読書支援センターについて

[久喜図書館高野司書主幹]

資料1「県立久喜図書館の児童サービスと子ども読書支援センターについて」に基づき説明

【質疑】

委員：説明の最後にあった動画の配信（「コロナ禍において実施した新規サービス」の「わらべ歌動画の配信」）についてですが、これはホームページ上にある動画をダウンロードすれば自宅のパソコンで見ることができるのですか。

事務局：埼玉県立図書館のツイッターがございまして、ツイッター上で御覧いただくことができます。ちなみに3種類つくりました。他に2種類ありますので御覧いただければと思います

委員：コロナ禍において大変な努力をされていると思いますが、今年は、講師派遣コーディネートは実施されていますか。

事務局：前年度から申し込みをいただく小学校が多いのですが、学校自体が休校となっていた関係で今はほとんど申し込みがない状態です。昨年度から申し込みいただいている学校については2団体だけ派遣事業を実施しました。

委員：コロナ禍で制約が多く大変だと思いますが、（ボランティアの）スキルアップのための講師派遣というのは大事なことです。講座をオンライン授業という形としたり、題材だけでも提供したりするなど、そのような計画はありませんか。

事務局：今のところ、公開できるもの、例えば資料やプログラムなどはできるだけ掲載するようにしています。

ボランティア研修については年明けに実施する予定です。一般のボランティアの方の活動は、今年度中は難しいようでどこの市町村でも読み聞かせを始められる状況にないというのが学校の実状のようです。9月以降は少し始まっていると聞いていますので、そうした方々に使っていただける資料を今後掲載していきたいと思います。

委員：ぜひよろしくをお願いします。

委員：子供向け事業の関係ですが、おはなし会や工作会など、今年度は実施されていますか。

事務局：人数制限をしています。また、ほとんどの事業を事前予約制として

います。必ず距離を保っていただくことや自宅で熱を測っていただくこと、また、小学生についてはマスクの着用をお願いしたうえで実施しております。

人数をかなり絞っておりますので、夏休みの自然の博物館との連携事業はたくさんの申し込みをいただき、お断りをする事になってしまいました。

委員：予約の方法はどのように行うのですか。

事務局：電話かメールです。

委員：電話でも受け付けてもらえるのですね。本当に大変な状況の中でよくここまでやられていると思います。

委員：9ページの「子供の読書に関わる人への研修」について伺います。子供が幼児期に読書の習慣を身につけることは将来の思考力に影響を与えたいと思います。そのため、母親の影響が一番大きいと思いますが、例えば図書館と母子手帳を発行する機関が連携できれば、最初から母親を図書館に行かせることで子供に読書のきっかけを与えたいと思います。我が家でも孫に対し早いうちからそうした教育を行っており、最初はこんな小さいうちからなぜと思いましたが、自分の時にできなかったこともあり、こうしたことが改めて重要であると思えました。

事務局：県立図書館が行っていることではありませんが、各市町村の図書館では乳幼児健診において、読み聞かせボランティアを派遣したり、ブックスタート事業と申しまして、本を手渡し、そこで読み聞かせを行うことが盛んに行われています。ブックスタートは今、ほとんどの市町村で行われており、お母さんに3か月の子供でも本を楽しめることを知っていただき、図書館へも導いていただくような色々な方策がとられています。

委員：生まれてすぐの子供に読書が関係するのかと思いましたが、そのあたりから始めることを、全地域でシステムとして取り組まればよいのかなと思えました。

会長：ブックスタートは市町村が実施しているのですね。

事務局：そうです。

委員：11ページの特別支援学校への支援について、何年前にこちらへも目を向けていただきたいと申し上げたことがあり、着実に進んでいるということに、改めてお礼を申し上げます。それぞれ孤立していたことがあるので、各校の情報交換もありがたいことと思います。今どのくらい参加できるのか伺います。

また、子供向けの活動が幅広く支援されていることを教えていただきましたが、手作りの布の絵本はどのようになっているのか教えていただきたいです。

事務局：今年度開催した特別支援学校図書館運営講座ですが、会場のこともあり定員が元々12名で、申し込みが12名でした。そのうち県立高校の司書が3名おりました。これは高校に併設された特別支援学校の分校の司書の方を受け入れたものです。特別支援学校の方が9名、2校だけ複数の参加者がありましたので、7校くらいの参加だったと思います。

布の絵本については、当館（久喜図書館）ではバリアフリー読書推進担当が手作り布絵本ボランティアの運営を行っており、布絵本の作成、貸し出しを行っております。県内ではいろいろなところで手作りの布絵本を活用しているところがあり、かなり普及しております。市町村の図書館によっては、通常の公開の図書室で貸し出しも行っています。当館では、見本は子ども図書室にもありますが、実際には特別支援学校の生徒が利用されているものが多いです。なかなか横のつながりはないのですが、作品を見たいと当館にいらっしゃるボランティアの方もいらっしゃいます。

委員：それほど多くない職員の人数でこれだけ幅広い活動をしており、ありがたいと思っています。「とっておきのえほん100冊」がカラー刷りでよくできており、予算もかかったと思われませんが、たくさんの方に見てもらいたい、できることなら全ての親に渡したいと思うぐらいですが、どのくらいの冊数を発行したのか、また配布先についても教えていただきたいと思います。

また、子供向けの読書会について、子供たちを集めてよいのかこの図書館でも試行錯誤していると思います。コロナと関係なく考えて、小さい子供向けは0歳から4歳となっていますが、かつて自分の勤めていた図書館では、今もわらべ歌は0歳、1歳、2歳というクラス分けをしていて、できることが0歳と4歳ではかなり幅があるのでそのような形になっていると思いますが、逆に一人で聞けるお話会は、小学生は来ないで3、4歳の子が多かったということがありました。そうしたところで工夫されていることがあればお聞かせください。

事務局：「とっておきのえほん100冊」は3千部刷りました。配布したのは1,500部ほどです。子供たち全員に配るのは難しいので、インターネットからダウンロードできるようにしています。QRコード*からスマートフォンでもこの冊子を見ることができるようになっています。QRコー

*「QRコード」は(株)デンソーウェーブの登録商標です

ドを配布した9月20日ぐらいから、10日間のダウンロード数は100件ほどありました。冊子で配布したいところですがこういう形もとっています。

小さい子向きのおはなし会ですが、0歳から4歳という、御指摘のとおり1か月で子供の成長が違うのにとっても乱暴なくくりなっているのは、県立図書館の小さい子向きおはなし会には残念ながら（市町村の図書館のように）参加者が大勢いらっしゃる訳ではなく、8、9か月、1歳2、3か月ぐらいまでのお子さんが主流で、1歳くらいの子をターゲットにしています。また、夏休み中には幼稚園の子もいらっしゃいますが、楽しくやっています。

土曜日のおはなし会（ひとりできける子向き）は、逆に小さい子向きお話し会に来ていた子たちがちょっと大きくなって来ることが多く、参加している子はほとんど幼稚園から小学校1、2年生で、対象となる子があまり幅広く来ている訳ではないので、対応できているというのが現状です。

（2）「埼玉サーチ」について

[熊谷図書館 須貝俊司書]

資料2「2020年10月1日 埼玉サーチ、始動」及びプロジェクトーによる投影に基づき説明

【質疑】

委員：「埼玉サーチ」は埼玉県のもの、また、「ジャパンサーチ」はわかりましたが、全国的に見て各都道府県ではどのくらいの数がこのような「サーチ」を導入していますか。

事務局：有名なところでは県立長野図書館がジャパンサーチに近い横断検索の仕組みもっており、実際にジャパンサーチに連携しています。私が知る限り他にはあまりなく、埼玉サーチは先進的な事例であると考えます。

委員：素晴らしい取り組みで、埼玉の人气が上がるとういんですね。

会長：東京都立図書館が行っている東京アーカイブは地図など色々な資料を見ることができますが、これはまた違う仕組みですか。

事務局：それについては把握しておりません。

委員：この埼玉サーチと県立図書館の関わりはどうなっていますか。

事務局：県立図書館は運用管理者ということでシステムの運用管理を行っています。文化資源課や各博物館と連携をとってデータを提供していただき検索できる仕組みを管理しています。

委員：著作権の問題については、埼玉サーチとして、埼玉県全体でどのよ

うに使えるかどうかということを取っているのですか。

事務局：他の博物館がどのような資料を持っているかという、メタデータとありますが、そのデータ自体には著作権はないので、誰でも横断的に検索できるシステムになっています。

会 長：基本的にデジタルデータはCC BYなので誰でも使えることになっているということによいのですか。

事務局：今のところCC BYがつけられているのは図書館のデジタルライブラリーのものだけです。

会 長：他の博物館資料は別ということですね。

事務局：博物館がこれからどう考えるかによって運用が変わってきます。今のところ博物館収蔵作品を検索できるようになったということです。

委 員：とてもすばらしいと思いますが、博物館の資料を見ようとするとコバトンがごめんなさいをします。(画像が表示されない。) 国宝などはしっかり検索できますので、博物館がもっている資料をもっとオープンにしていだけるといいと思います。

事務局：そもそも埼玉サーチは、埼玉県内を検索するときに図書館に行って図書館のデータベースが見られる、博物館に行けば博物館のデータベースが見られるというように、各館のページを追っていかなければデータを見ることができないものを、まとめて1か所から入って、図書館、美術館、博物館の資料をいっぺんに探すことができることを目指しています。

二次利用については自分のところで所有しているものはある程度できますが、借りているものや著作権上制限があるものもあり、デジタル化はしてあっても自由な利用はできないということになります。

全国の流れとして、ジャパンサーチに各都道府県がデータを提供してくると、ジャパンサーチを海外から見ることができるようになります。その配下にある埼玉県が今このような形でつなげていこうとしています。

CC BYができる形がベストではありますがまだそこには至っていません。始めたばかりですので図書館も古写真をデータベース化するなどしておりますので、それらがつながるように努力したいと思いますので、皆様にもあたたかい目で見えていただくようお願いします。

会 長：世界から使っていただくという話がありましたが、多言語対応はどうですか。

事務局：インターネット上で公開されているものですので、世界中から全ての人アクセスできるという意味で話をいたしました。多言語対応につ

いては現状考えられておりません。

(3) その他

「図書館と県民のつどい埼玉2020」の開催について

[熊谷図書館 浮ヶ谷担当部長]

資料3「図書館と県民のつどい2020について」に基づき説明

【質疑】

会 長：記念講演の現在の申し込み状況はいかがですか。

事務局：昨日現在で記念講演は167人です。講演後のオンライン公開の希望者は28人です。11月1日に彩の国だよりにより広報する予定ですし、駅にもポスターを貼っています。今後も広報に努めまして盛り上げていきます。

委 員：講演に関して、インターネットかハガキにより申し込むことになっていますが、インターネットの場合、家族など1単位で4人まで申し込むことになっていますが、先ほどの167人はどのようにカウントしているのですか。

事務局：全員分を数えています。一つの申し込みで4人なら4人ということでカウントするようにシステムを組んでいます。

委 員：定員が300人のところをすでに半分以上申し込んでいるということですね。

以上で、議事終了

6 閉会